

である)

エ. 指導要領に示されている教材のうちで、指導されていない教材の実態について

① 男子の場合

5割以上の学校が指導していない教材は次の通りである。

すもう、剣道、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール、ラグビー、泳法、競泳、飛込、フォークダンス

以上12教材

② 女子の場合

5割以上の学校が指導していない教材は次の通りである。

バドミントン、競泳、飛込、救助法

以上4教材

③ 男女の比較

男子の場合と女子の場合とを比較してみると、5割以上の学校が指導していない教材の数は、男子25教材中12教材、女子22教材中4教材である。この点では女子の場合よりも男子の方が教材をより精選して指導しているように考えられる。

オ. 指導できない(していない)理由

表1 男子の場合

教材	設備不備	用具不足	時数不足
すもう	○		
剣道		○	
テニス	○		
卓球			○
バドミントン	○		
ソフトボール			○
ラグビー	○		
泳法	○		
競泳	○		
飛込	○		
救助法	○		
フォークダンス			○

表2 女子の場合

教材	設備不備	用具不足	時数不足
バドミントン	○		
競泳	○		
飛込	○		
救助法	○		

以上の結果から圧倒的に施設不備が、これらの教材の指導できない理由となっている。特にプールのない学校が多い。また、時間不足、用具不足などが、指導できない理由となっている。また施設が仮に充実した場合でも、時間数の不足のために十分には指導できない場合が多いと考えられる。

③ 指導の実態と教材の精選について

ア. 運動領域別指導の実態

昭和38、39年度の2年間における運動領域別の配当時間と学習の到達度を示すと次のようになる。

表3 領域別指導時数の予定と実施

領域	性別	指導予定時数			指導実施時数		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均
徒手器械	男	16	90	49.8	16	85	45.2
	女	18	43	28.2	13	38	27.5
陸上	男	16	65	40.5	11	60	37.3
	女	8	53	24.8	10	45	23.7
格技	男	0	70	34.8	0	70	31.3
	女						
球技	男	46	125	85.7	46	120	80.8
	女	39	85	59.6	29	89	55.0
水泳	男	0	30	10.2	0	25	7.8
	女	8	23	5.6	8	18	3.8
ダンス	男	0	10	0.7	0	10	0.7
	女	8	68	36.6	8	53	34.0
理論	男	6	35	14.6	1	35	13.6
	女	3	48	13.5	2	18	9.8

この表によれば、各領域の時間配当には著しい学校差がみられる。予定時数より10%程度実施時数が少なくなっているのは、諸行事(考査を含む)や教師の出張などが原因と考えられる。

領域別指導時数の平均を百分率で表わし、指導要領の基準のパーセンテージの中央値と比較すると、次の表および図1、図2のようになる。

図1、図2では、男女の水泳および男子のダンスの他は、指導要領の基準に従って指導されていることがうかがわれる。

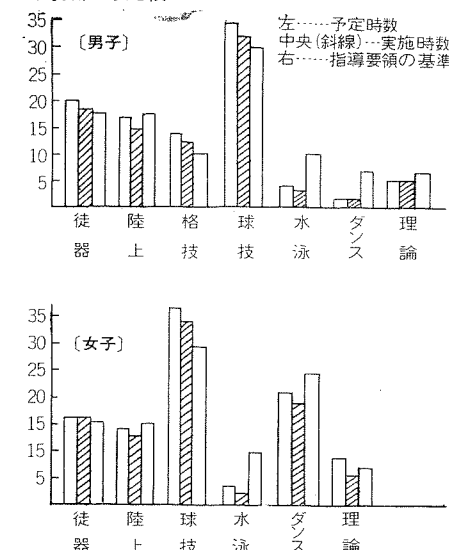
表4 領域別指導予定時数・実施時数とそれぞれの%と指導要領の基準(%)の比較【男子】

領域	予定時数 と%の別	昭和38・39年度 2年間の予定時数	同左 実施時数	指導要領の基準
徒手器械	予定時数 %	16~49.8~90 7~20~37	16~45.2~85 7~18~35	37~43~49 15~(17.5)~20
陸上	予定時数 %	16~40.5~65 7~17~27	11~37.3~60 4~15~25	37~43~49 15~(17.5)~20
格技	予定時数 %	0~34.8~70 0~14~29	0~31.3~70 0~13~29	12~25~73 5~(10)~156
球技	予定時数 %	46~85.7~125 19~35~51	46~80.8~120 19~33~49	61~74~86 25~(30)~35
水泳	予定時数 %	0~10.2~30 0~4~12	0~7.8~25 0~3~10	12~25~37 5~(10)~15
ダンス	予定時数 %	0~0.7~10 0~0.3~4	0~0.7~10 0~0.3~4	12~18~25 5~(7.5)~10
理論	予定時数 %	6~14.6~35 2~6~14	1~13.6~35 0.4~6~14	12~18~25 5~(7.5)~10
計	%	35~96.3~174	30.4~88.3~166	184~245~306.3 76~(100)~125

「予定時数」「実施時数」は、領域別にその最小値、最大値をおさえ、頻数分配によって中央値を出したものである。左は最小値、中は中央値、右は最大値を示す。

運動領域別時間配当の実態

図1 予定時数、実施時数、指導要領の夫々の中央値(時数)の比較



イ. 運動領域と到達度

表5 指導要領に示されている指導内容(3年間の分)に対する昭和38・39年度2年間における到達度(%)

男子			
領域	最低	最高	平均%
徒手器械	31%~	90%	57
陸上	11~	90	52
格技	11~	90	52
球技	11~	90	52
水泳	1~	100	49
ダンス	31~	80	56
理論	11~	90	51
女子			
領域	最低	最高	平均%
徒手器械	21%~	80%	45
陸上	1~	70	42
球技	21~	80	49
水泳	11~	80	49
ダンス	21~	90	59
理論	11~	90	49